

### 1 据付け工事

据付け場所は、水道配管工事・電気配線工事などの付帯工事が容易にできる場所にて下さい。又、火災予防上指定の距離がしゅらんに取れるスペースが必要です。

#### 1. 開こん

●付属部品(本体に同梱しています)

燃料フィルターセット 1個	アース棒 1個	リモコン工事用ヒスセット	プラグ 1個	左配管用送油パイプ 1個	排気トップ (OW-40G専用) 1個	煙突接続フランジ (OW-40GE/40GEK専用) 1個
---------------	---------	--------------	--------	--------------	---------------------	-------------------------------

●別販部品(事業部取扱い品)

品番	OT-903	OB-PC6K2CA
部品名	油タンク	リモコンケーブル
取扱事業部	石油機器事業部	暖房システム事業部

●システム部材センター取扱い品

AD-322B6	水道用減圧弁	1	
AD-3220A2	逃し弁(安全弁)	1	給水用
AD-3220B6	逃し弁(安全弁)	1	給湯用補助逃し弁付
AD-3820JS	自動空気抜き弁	1	他に15A用あり
AD-T2012.O	#120排気筒セット	1	煙突排気式用
AD-T2005.O	#105排気筒セット	1	
AD-2012HL	#120強制排気トップ	1	強制排気式用・他に
AD-2005HL	#105強制排気トップ	1	強制排気筒セットあり

#### 2. 設置及び据付け

●据付け場所の選定

- ① 室外設置の場合は、雨がからないように軒下等に設置して下さい。
- ② 配管からの放熱ロスを少なくするため、使用頻度の多い浴室又は浴室に近い場所。
- ③ 排水工事が基準通りに行える場所。
- ④ 油タンクが安全に設置できる場所。
- ⑤ 室内設置の場合、十分に換気が行える場所。
- ⑥ 本体前面にメンテナンスができるスペース(1.5m)がとれる場所。
- ⑦ 隣近所への運転騒音が配慮できる場所。
- ⑧ 湿気の多い場所や、ガス等揮発性の物が近くにない場所。

●燃焼空気取入口  
室内に設置される場合は、下表の開口面積の取入れ口を上部(換気口)と下部(給気口)にそれぞれ1カ所所設して下さい。

有効開口面積	鋼製 ガラリ
600cm <sup>2</sup> ×2カ所	1200cm <sup>2</sup> ×2カ所

●アンカーボルト  
●本体下部は空気取入口としておりますので、ふさがないようにして下さい。

### 2 油配管工事

500ℓ以上、1000ℓ未満の油タンクを設置する場合、設置場所が必要な場合があります。各地の火災予防条例に従ってすみやかに届出をして下さい。

●油タンクの据付け場所は、下記の点に注意して選定して下さい。

- ① 風通しのでよところで直射日光などの影響が少ない位置。
- ② 直接雨水がかからない位置。
- ③ 室内に設置する場合は、壁・柱・天井は不燃材にする。
- ④ 落雷の影響のない位置。

#### 送油配管(燃料フィルター)

●付属の左配管用送油パイプに組み替えると、燃料フィルターを左側に取付けられます。

- ① 本体右側からの配管  
送油アダプターに付属の燃料フィルターを接続して下さい。  
シールテープを使用して、油漏れのないように確実に締めてください。
- ② 本体左側からの配管  
●右側配管仕様となっておりますので、接続部の組み替えが必要です。  
●現在付いている送油管を取りはずして下さい。  
●電磁ポンプ側のフレアナットは、ニップルがゆるまないようスパナで保持して取りはずして下さい。

②アダプター・支持金具の取付けビス(2本)をゆるめ取りはずして下さい。

③ 左側送油口のゴムキャップをはずして、右側送油口に取付けてください。

④ 左側送油口に、アダプター・支持金具を取付けビス(2本)を取付けてください。

⑤ 付属の左配管用送油パイプを、両端のフレアナットにてニップル及びアダプターに締付け接続して下さい。

⑥ アダプターに付属の燃料フィルターを接続して下さい。  
(シールテープを使用して、油洩れのないように確実に締めてください)

●配管接続部の油洩れを必ず点検して下さい。

●配管材料はφ8なまし鋼管を使用して下さい。  
●配管の途中に空気だまりができませんようにする。  
●鋼管のフレヤ出しは必ずフレヤ工具を用いて行ってください。  
●配管接続部の油洩れを必ず点検して下さい。

### 3 水道配管工事

配管工事は水道局の指定工事店に依頼し、所轄の水道局の規定に従って下さい。

●排水口は左右に設置していますので、ご使用にならない排水口はプラグ(付属部品)により必ず密閉して下さい。

●加圧システムを使用する場合は「サービスマニュアル」を参照して下さい。

●自動空気抜き弁は、熱交換器内に貯まる気体を排出するのに必要ですので、必ず取付けてください。

#### 給湯配管

逃し弁(安全弁) (AD-3220B6)  
設定圧……0.97kg/cm<sup>2</sup>  
特に重要ですので、必ず取付けてください。

自動空気抜き弁 (AD-3820JS)  
熱交換器内に貯まる気体を排出するに必要ですので配管に対して垂直(10℃以内)に付けてください。

配管材料  
給湯管は耐久性・衛生上の点から鋼管を使用して下さい。

#### 給水配管

逃し弁(安全弁) (AD-3220A2)  
設定圧 1.2kg/cm<sup>2</sup>

水道用減圧弁  
2次圧力設定値……0.85kg/cm<sup>2</sup>

配管材料  
給水管は合成樹脂管内面処理鋼管、又は鋼管を使用して下さい。

一般給水配管  
水道1次給水より分岐して下さい。  
水道用減圧弁の2次側からの給水配管はおこなってください。

シャワー用給水配管  
水道用減圧弁の2次側からの給水配管はシャワー用のみに限定して下さい。

#### ドレン配管

ホッパー (AD-3100A)  
万一、オーバーフロー管が凍結しても、スムーズにお湯が排出されるよう必ず取付けてください。

ユニオン  
●本体との配管接続には、ユニオンを必ず取付けてください。  
●鋼管の場合、電圧による腐食を防止するため絶縁ユニオン(AD-3020U)を使用して下さい。

#### 保温工事

●煙突(排気トップ)と配管保温材の距離が近いと保温材の距離が近くなり保温効果が下がります。必ず5cm以上の距離を確保して下さい。  
●排気トップの吹き出し方向には配管の引込を行わないでください。

逃し弁の保温工事  
保温箱(発泡スチロール製)を必ず取り付けてください。

減圧弁の保温工事  
保温箱(発泡スチロール製)を必ず取り付けてください。

水道用減圧弁の加熱工事  
減圧弁凍結防止ヒーター (AD-422B)

### 4 煙突(排気筒)工事

煙突(排気筒)工事は正常なドラフト(通風力)を与え、燃焼を正しく行うためと安全性の観点から極めて大切な工事です。各地の火災予防条例では煙突の設置基準を定めておりますので、必ず厳守して正しく工事して下さい。

#### 排気トップ式 OW-40G

●排気トップは付属の専用のものを使用して下さい。

●排気筒の延長限界

曲り数(エルボ)	長さ(直管)
1	7m
2	5m
3	3m

●強制排気式 OW-40GE, OW-40GE K

●煙突工事の前に必ず付属の煙突接続フランジを付属の取付ネジで本体の煙突接続口に固定して下さい。

●排気筒の材質はステンレス鋼板で寸法φ120mm又はφ105mmを使用して下さい。

●排気筒は長すぎたり曲りの数が多すぎたりすると燃焼不良の原因になりますので注意して下さい。

●排気筒と可燃物の距離a寸法は本体から1.8m以内の部分は45cm以上、1.8mを超える部分は15cm以上にして下さい。

●排気筒の各部接続は付属のシールテープで必ずシールして下さい。

●屋内設置・ボイラ小設置の場合、給気口、換気口共に有効面積600cm<sup>2</sup>以上にして下さい。

●給気口は排気が流入しない位置に必ず取付けてください。

●排気筒トップの開口部15cm以内は可燃物がないこと。排気筒1m以内の開口部(窓など)がないこと。

●排気筒トップは必ず、別販強制排気トップφ120用 (AD-2012HL) 又はφ105用 (AD-2005HL) を使用して下さい。

●排気筒トップの開口部15cm以内は可燃物がないこと。排気筒1m以内の開口部(窓など)がないこと。

●排気筒トップは必ず、別販強制排気トップφ120用 (AD-2012HL) 又はφ105用 (AD-2005HL) を使用して下さい。

### 5 電気配線工事

適切な位置に電源コンセントがない場合は、電気配線を電力会社の指定工事店に依頼し、所定の配線をしてください。

●電源は単相交流100Vを使用して下さい。電源電圧が高すぎたり、低すぎたりすると誤動作の原因になりますので90~110Vを確保して下さい。

●50Hzと60Hz地区とは電磁ポンプの配線および空気調節弁の設定位置が異なります。Hz表示を確かめてください。

●屋外用コンセントは必ず雨水のかからない場所に設置して下さい。

●リモコンケーブルは電源コードと接触しないように配線して下さい。誤動作の原因になります。

#### 1. 接地(アース)工事

●万一の感電事故防止のため、必ずアースして下さい。

●電気設備基準に基づき、必ず電気工事士による第3種接地工事を行ってください。(法令で規定されています。)

●さらに、漏電遮断器を取り付けることをおすすめします。

〔ご注意〕 ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路、又は漏電遮断器を入れた他の製品のアース回路には接続しないでください。(法令などで禁止されています。)

#### 2. メインリモコン工事

●製品本体に取り付けてあるメインリモコンを必ず屋内リモコンにする場合に行ってください。

●メインリモコンの取付場所は需要家様とご相談のうえ、下記の点に注意して選定して下さい。

- ① 必ず屋内に取り付ける。
- ② 運転スイッチの操作が容易で、表示ランプがよく見える場所。
- ③ 配線工事が容易で、配線の長さが20m以内になる場所。
- ④ 高温(50℃以上)になる場所、湿気の多い場所には取り付けない。
- ⑤ 幼児の手のとどかない場所。

#### 簡易リモコン(電源のON/OFFのみ行う)の場合

- ① 製品本体のメインリモコンはそのままにしておく。(運転スイッチはOFFの状態にしておく。)
- ② 本体メインリモコンの運転スイッチをONにしておく。
- ③ 簡易リモコンの電源スイッチをONにして運転が停止しませんので注意して下さい。
- ④ 高温(50℃以上)になる場所、湿気の多い場所には取り付けない。
- ⑤ 幼児の手のとどかない場所。

#### 壁面に埋め込む場合

- ① ①～⑥までは「壁面に取り付ける場合」と同じ手順で行う。
- ⑦ 壁面に1コ用スイッチボックス(カバーなし)を設置する。
- ⑧ スwitchボックスを基準に壁にはほぼ同等の大きさ(55×100mm)の穴をあける。
- ⑨ リモコン基板をスイッチボックスに付属のネジ(4×30、2本)で取り付ける。
- ⑩ ①～⑫は「壁面に取り付ける場合」と同じ手順で行う。

### 6 試運転

●据付けが完了したのち、「取扱説明書」の「据付け工事後の確認と試運転」の項目に従って必ず、チェックと試運転を行ってください。

●需要家様への引渡しに際して、同梱してある「取扱説明書」をお渡しの際は、「使用方法・日常の手入れ」について説明して下さい。

●特に「油タンクの灯油を切らさないようにしてください」と「凍結予防のための使用方法」については念を押して需要家様にお願いをしてください。

#### 運転準備

- ① 給油  
油タンクに灯油(JIS1号灯油)を入れる。
- ② 送油管の空気抜き  
燃料フィルターの空気抜きをゆるめ、空気抜きをする。
- ③ 油洩れの確認  
配管および本体から油洩れがないか確認する。
- ④ 給水  
給水配管の元栓を「開」にし、給湯蛇口から水が出ることを確認する。
- ⑤ 水洩れの確認  
配管および本体から水洩れがないか確認する。
- ⑥ 電源プラグの確認  
専用コンセントに電源プラグをさし込む。

#### 運転

運転スイッチを「入」にし、運転状態へ、次の異常がなく、正常であることを確かめてください。

- ① ファンモーターの回転異常音、電磁ポンプの異常音および振動音。
- ② 善火異常音(善火おくれなどによるもの)。
- ③ 煙突からのすす発生。
- ④ 振動燃焼などによる燃焼異常音。
- ⑤ 炎検出器の異常などによる断続燃焼。
- ⑥ 試運転時、排気筒トップより臭いや白煙が出る場合がありますが、運転を続けると消えます。

●ご注意  
● 燃焼ランプが点滅する時は、「使用方法」故障・異常の見分け方と処置方法の項を確認して、運転スイッチを「切」/「入」して下さい。  
● 電磁ポンプの調圧ネジなどの部品の調節や、改造は危険ですので、絶対におやめください。